

令和6年度（2024年度）学校評価書

北海道霧多布高等学校

令和6年度重点目標

1 わかる喜びを味わう授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。									
2 心身の健康と自らを律する姿勢を大切にし、他者と協働できる人間性豊かな生徒を育てる。									
3 生徒のやる気と可能性を引き出し、自己実現に粘り強く取り組む生徒を育てる。									
4 地域との密接な連携のもと、町民に信頼され、地域に貢献する生徒を育てる。									
A：そう思う B：おおむねそう思う C：不十分である D:改善を要する									
領域 対象		No	今年度の重点目標	目標達成のための評価の観点	評価			改善・充実の方策	学校関係者評価
					保護者	教職員	学校（案）		
教育活動	学習指導	1	授業改善による学習意欲の喚起	授業評価や校内研修などのデータを分析し、授業改善に活用することにより、学習者の意欲を高めることができた。	B	C	B	○T T や習熟度別学習、ICTを用いた学習等により、生徒の実態に即した学習指導に一定の成果がみられた。今年度は、定期考査期間を設定せず、年間を通して各科目で単元テスト等を実施し、実態に沿った観点別評価を行うとともに、自己調整学習力を養い家庭学習の定着化の推進を図った。授業改善については教職員の評価が「C」となっており、授業形態の変化につれ、更なる教職員研修の充実が必要である。	B
		2	個に応じたきめ細かな学習指導の充実	個に応じたきめ細やかな学習指導を、ICT等を積極的に活用し、教科ごとに工夫・改善することにより、深い学びにつながる魅力ある授業を実践できた。	B	B			
	生徒指導	3	生徒会活動の積極的な運営への支援	生徒会執行部及び各委員会が積極的に日常の学校生活に課題意識をもち、その課題解決に向けた取組を推進する支援を行った。	B	B	B	○生徒会活動では、日常の課題にしっかり目を向け主体的に行動することができた。しかし、生徒数減少等で実行できることが限られ、思うように企画が通らないなど、生徒にとっては消化不良となる場面も多かった。 ○生徒指導の在り方については、保護者からは概ね高評価を頂いている。校則については時代とともにその在り方が変化しているため、地域の方々の理解を得ながら、作り上げていけるよう支援する。	B
		4	生徒指導の在り方検討	生徒心得を始めとする規程を確認するとともに、生徒・保護者等の意向も踏まえ、今後の生徒指導の在り方について検討できた。	B	C			
	進路指導	5	個別支援制度の充実	生徒個々の可能性を引き出し、適切な勤労観や社会性を養うとともに、進路実現に向けた系統的な取組により指導できた。	B	B	B	○個別支援に関しては、進路希望に沿った形でニーズに答えることができた（国公立美大推薦等）。長期休業時の1・2年生への講習等で進学意識を高めるなどの早期支援が必要である。 引き続き、学校ホームページや学校便りなどをとおして、生徒や保護者、地域の方々に対しての情報発信の充実を図るよう努める。	B
		6	適切な情報発信	生徒・保護者及び地域の方に理解してもらいたい進路情報を、計画的かつ媒体を工夫しながらわかりやすく情報発信することができた。	B	B			
	健康安全指導	7	生命を大切にする教育の充実	「学校いじめ防止基本方針」の周知を徹底し、安心・安全な学校環境を構築することができた。	B	B	B	○定期的ないじめ防止対策委員会や教育相談委員会の開催により、いじめや悩みを抱える生徒の情報速やかに把握し、組織的に生徒に丁寧な対応をすることができた。また、年度内で浜中町主催のものも含め3回の津波防災訓練を実施し、本校の立地特性を常に意識した防災体制を維持できた。	B
		8	防災意識の向上	生徒の津波を始めとする自然災害への意識を高める効果的な防災教育の取組を行うことができた。	B	B	B		B
		9	食と健康	授業や給食を通じて、食育指導や栄養バランスについての指導ができた。	A	B	B		B
学校関係者意見等		・生徒個々の進路に合わせた学習指導は今後も充実を図ることが重要である。							
		・生徒数減少は、今後も更に進むものと推察され、その中ででの活動をどのように確立するかが課題ではないでしょうか。							
		・教職員の人事異動があっても、本校の教育方針がぶれることなく受け継がれていることに感謝です。							
学校運営	開かれた学校づくり	10	教育課程の検討・改善	社会に開かれた教育課程の編成・実施に向け、評価・改善するための情報収集及び検討会等を適切に行うことができた。	B	B	B	○新学習指導要領のもとでの授業展開となっており、指導と評価に関する研修で得たことをもとに実施した。定期考査は廃止したが、単元別考査など教科・科目によって多様な評価が可能となり、授業改善へとつなげていく。	B
		11	町内小中学校との連携推進	授業公開、学校訪問、情報発信の工夫などにより、町内での本校教育活動への理解が進み、本校への進学率を向上できた。		C			
	組織・運営	12	学校評価の充実	学校課題の速やかな把握に努め、課題解決に向けた取組を年度内に実行できた。	B	C	B	○働き方改革の観点から、自己の働き方を見つめなおし、業務の効率化や在校時間を意識した働き方を行なうようになった、また、ミドルリーダーを核として、社会変化に対応した学校課題を見出せるようになった。 今後は、その学校課題を解決するための方策を考え、古い固定観念にとらわれないようなアイディアを出してもらい、学校改善に努める。	B
		13	学校運営の見直し	分掌業務量、運営の在り方などについて再確認し、「働き方改革」を見据え、円滑で効果的な運営に向け改善を図ることができた。		B			
	教員の資質向上	14	校内研修の充実	基本的な研修を積み上げ、危機管理を始めとする重要な校務に対し、全職員が同じ歩調で歩む体制づくりを推進できた。	B	B	B	○研修委員会により危機管理や生徒理解、診断テスト分析などの研修会を企画するとともに管内研究会やオンラインによる各種研修に多くの教職員が積極的に研鑽を深めた。 今後は、教職員の研修報告を積極的に共有し、資質向上に向け切磋琢磨する雰囲気を向上させると共に、道内外における各種研修の機会について、教職員に積極的に周知し、本校教育活動の充実に一層寄与できるよう努めていく。	B
15	校外研修の共有	オンラインも含めた不定期な研修報告を資質向上への意識喚起の機会とするとともに、教員の相互理解促進の機会として活用できた。	B						
学校関係者意見等		・浜中町に赴任してこられる先生は、とても熱心に子どもたちに接してくれていると感謝しております。							